



トマトをおいしく作るコツ

家庭菜園人気NO.1のトマト。様々な苗が市販されており、スーパーで見掛けない、珍しいトマトを作れるのが栽培の醍醐味です。ちょっとしたコツを覚えて、おいしく育てましょう！



▲赤々と実ったサントリーフラワーズの「シュガーミニ」
▶トマトは下から1段ずつ花が咲き、実がついていく(品種は「ジュシーミニ」)

【追肥は1・3・5】

「おいしくなあれ」と、ついつい肥料をたくさん与えていませんか？ トマトは肥料に敏感で、与え過ぎると草丈だけが伸びて、肝心の花が少なくなってしまう。特にチッソが多いと、大きいばかりのツルボケ(木ボケ)に。肥料は、適量を適当な時期に与えるのが大事です。

元肥はあまり入れず、追肥を1、3、5段目の花房が丸く膨らみ始めた頃に、それぞれ一握り(30g)ほど与えます。1・3・5のリズムで与えると覚えましょう。

【水やりは朝たっぷり、夕方なし】

肥料過多と共に多い失敗が、水のやり過ぎ。トマトは案外、乾燥に強く、逆に水が多いと根腐れを起こします。コツは、1日1回、朝、日が上がる前にたっぷり。暑い時期になると、夕方、しおれたように見えることもあります。でも、慌てて水を与えてはいけません。炎天下のベランダなどでは、鉢の中の土まで熱くなっています。そこに水を入れると、土も根も「煮えて」しまうのです。皮が軟らかい品種なら、乾燥している時に急に水をやると、皮が破れることもあります。いよいよ実が赤くなってきたら、水を

絞り(減らし)しましょう。味の濃いトマトになりますよ。乾湿のメリハリをつけることがおいしさの秘けいです。

【わき芽かきは、1段目の花が咲くから】

充実した果実をとるためには、1本仕立てがベスト。その過程で、わき芽かきは必須の作業です。しかし、植えた直後に出るわき芽を早く取りすぎると、かえって初期生長が悪くなる可能性があります。苗を植え込んでから2週間までに1段目の花が咲くので、この間はわき芽が伸びてもガマン。5センチくらいまでなら、伸びてもOKです。花が咲いたら、摘みとって構いません。以降は見つけたら取り除きましょう。

トマトは、夏場の水分吸収量が多く、炎天下でのプランタ栽培ではしおれたようになりがち。慌てて水をやると、根が煮えて、障害が出る可能性もあるので注意しよう。水やりは涼しい朝方がお勧め

トマトは、実は肥料のやり過ぎが苦手、先端部分の葉が内巻きになっているのは、チッソ過多の証拠



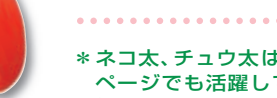
- 4月下旬、遅くともGWまでに植え付け、暑さのピークが来る前、7月末頃までに収穫するのがベスト
- 品種によって、大玉、中玉、ミニ、真ん丸、細長い姿と、大きさも形も様々。最近は調理用やベランダ栽培に適したコンパクトなものも増えている

▲上段まで確実に実り、丈夫で育てやすい「かんたんルビーノ」(中玉)



▲カボチャのような形が面白いグリルトマト「ロッシン」(大玉)

▲弾力のある食感で、格別な甘さの「ピュアスイートミニ」。イエローもある



*ネコ太、チュウ太は、本誌ホームページでも活躍しています。お気軽Life、今まで身に着けた衣装やかぶり物、たくさんのともだち……かわいい姿が満載です。「読売ライフ」で検索してみてください。



▲草丈50cm以下のベランダ栽培専用品種「ベランダレッド」(ミニ)

